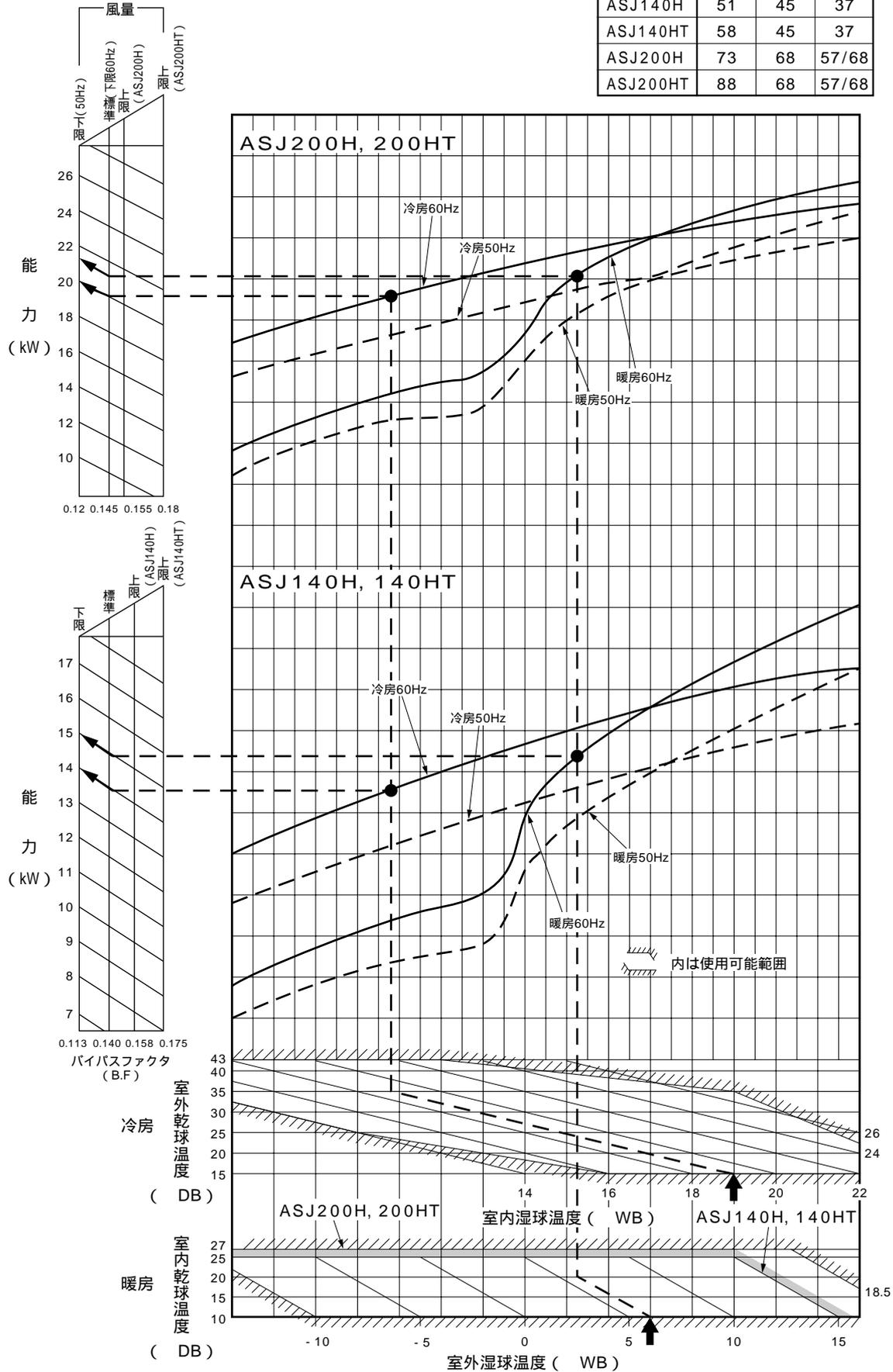


1.1.7 能力特性

(50 / 60Hz)

ASJ140H, 140HT, 200H, 200HT

	風量 (m ³ / min)		
	上限	標準	下限
ASJ140H	51	45	37
ASJ140HT	58	45	37
ASJ200H	73	68	57/68
ASJ200HT	88	68	57/68

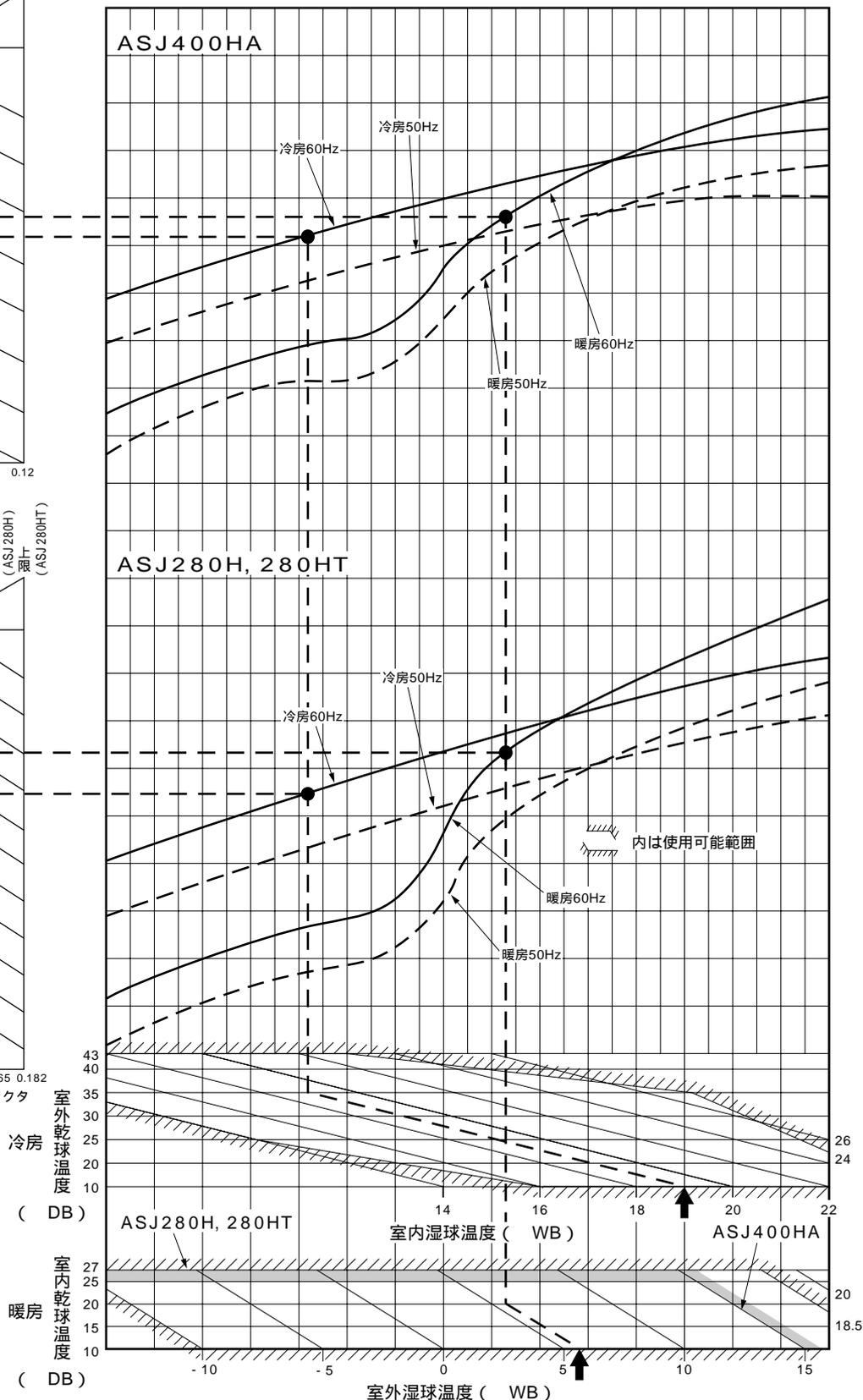
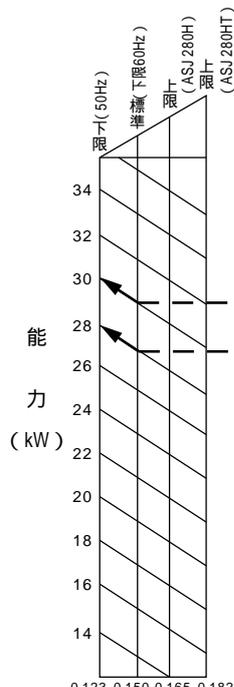
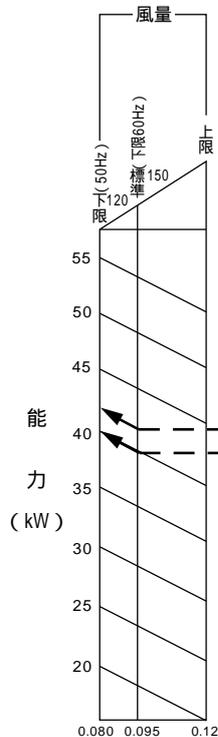


能力は、配管距離等により補正する必要があります。能力補正係数については44ページをご覧ください。

ASJ280H, 280HT, 400HA

(50 / 60Hz)

	風量 (m ³ /min)		
	上限	標準	下限
ASJ280H	100	90	75/90
ASJ280HT	117	90	75/90
ASJ400HA	175	135	110/135

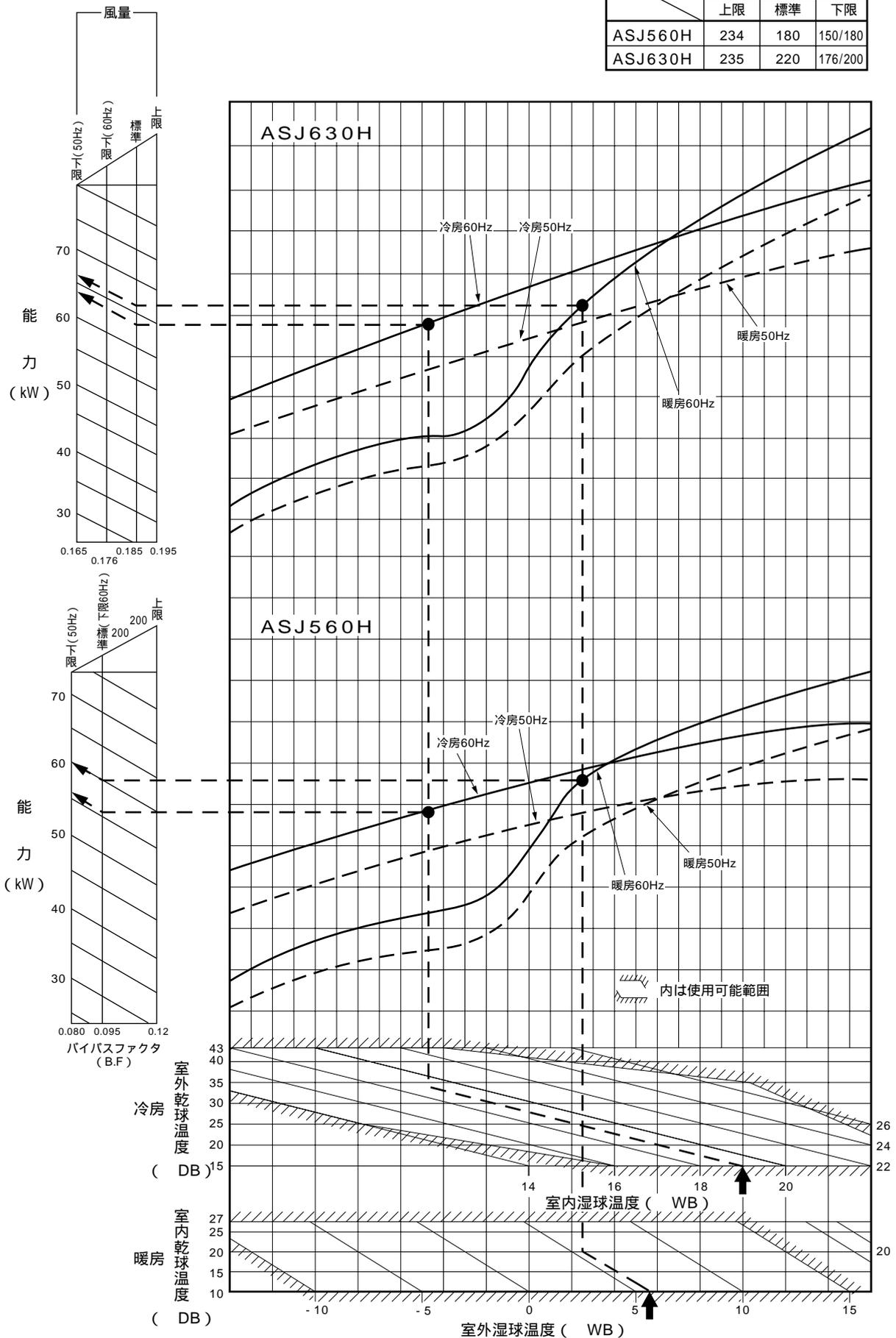


能力は、配管距離等により補正する必要があります。能力補正係数については44ページをご覧ください。

ASJ560H , 630H

(50 / 60Hz)

	風量 (m ³ /min)		
	上限	標準	下限
ASJ560H	234	180	150/180
ASJ630H	235	220	176/200

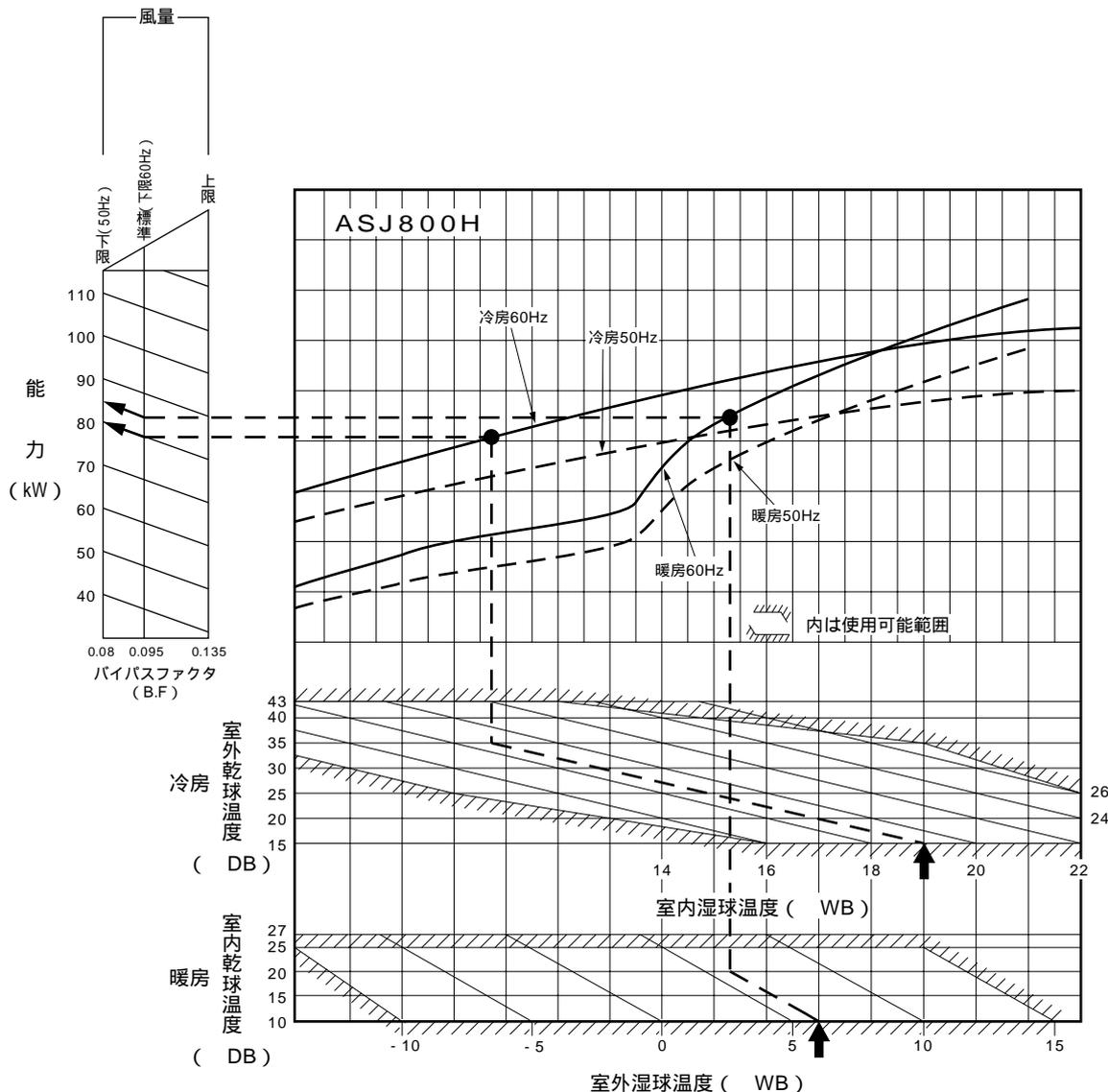


能力は、配管距離等により補正する必要があります。能力補正係数については44ページをご覧ください。

ASJ800H

(50 / 60Hz)

	風量 (m ³ /min)		
	上限	標準	下限
ASJ800H	350	270	220/270

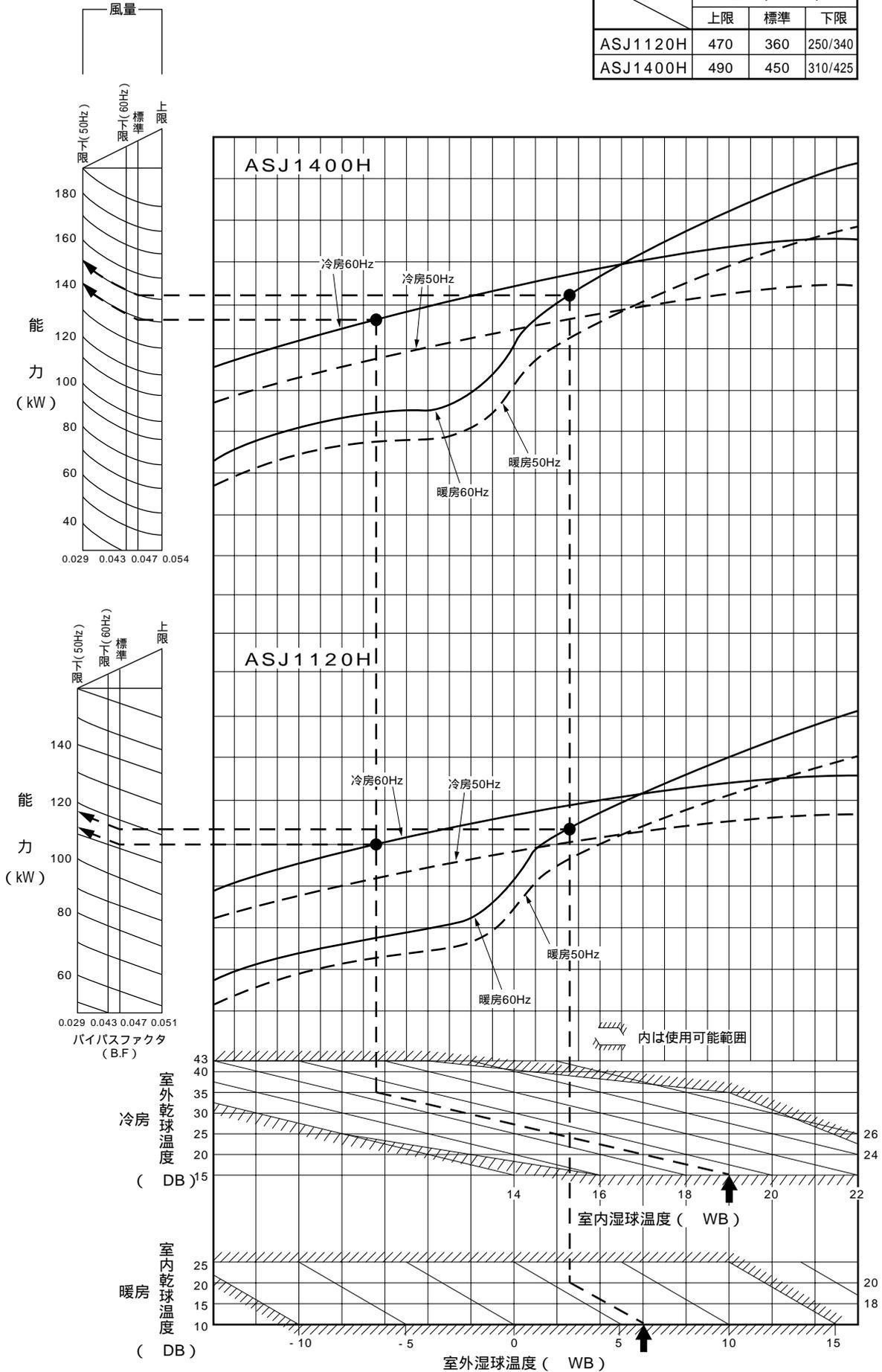


能力は、配管距離等により補正する必要があります。能力補正係数については44ページをご覧ください。

ASJ1120H, 1400H

(50 / 60Hz)

	風量 (m ³ /min)		
	上限	標準	下限
ASJ1120H	470	360	250/340
ASJ1400H	490	450	310/425



能力は、配管距離等により補正する必要があります。能力補正係数については44ページをご覧ください。

(1) 配管距離，室内・外ユニット高低差による能力補正

冷媒配管長（室内・室外ユニット間の配管の片道長）および室内・外ユニット高低差により冷，暖房能力の補正が必要です。

$$\text{正味能力} = \text{能力特性で求めた能力} \times \text{補正係数}$$

(a) 配管相当長による能力補正係数

室内・外ユニット間の高低差0mの場合の配管相当長対応の補正係数は下表のとおりです。

(50 / 60Hz)

相当長 (m)		5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
ユニット容量(馬力)												
冷房 (全容量共通)		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.995	0.995	0.99	0.99	0.985	
暖房	J 140H	1.0	0.99	0.98/0.975	0.97/0.965	0.96/0.95	0.95/0.94	0.94/0.925	0.93/0.915	0.92/0.9	0.91/0.89	
	J 200H, J 630H J 400HA	1.0	0.995	0.985	0.98	0.97	0.965	0.955	0.95	0.94	—	
	J 280H, J 560H	1.0	0.995/0.99	0.985/0.97	0.98/0.97	0.97/0.96	0.965/0.95	0.955/0.94	0.95/0.93	0.94/0.92	—	
	J 800H, J 1120H	1.0	0.99	0.98/0.975	0.97/0.965	0.96/0.95	0.95/0.94	0.94/0.925	0.93/0.915	0.92/0.9	—	
	J 1400H	1.0	0.985	0.97/0.965	0.955/0.95	0.94/0.93	0.925/0.915	0.91/0.895	0.895/0.88	0.88/0.86	—	

注(1) 相当長は下式により計算してください。但し相当長がそれぞれの形式の配管距離制限長さ+5m以内となるよう計画してください。

- ・ J140H : 相当長 = 実長 + (0.15 × 途中配管のバンド数)
- ・ J200H ~ J560H : 相当長 = 実長 + (0.10 × 途中配管のバンド数)
- ・ J630H ~ J1400H : 相当長 = 実長 + (0.15 × 途中配管のバンド数)

(b) 室内・外ユニット高低差による能力補正

冷房時，室外ユニットが下，暖房時，室外ユニットが上，の場合のみ配管相当長による能力補正係数から下表の数値を引いてください。

室内，外ユニットの高さ方向の差 (m)	5	10	15	20	25	30	35
調整係数	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06	0.07

冷房能力算出例

・形式：ASJ140H，60Hz標準風量，室内湿球温度：19 WB，室外乾球温度：35 DB

相当長：30m，室内外ヘッド差：5m（室外ユニットが下）

$$\text{正味冷房能力} = 14.0\text{kW} \times (0.995 - 0.01) = 13.8\text{kW}$$

能力特性 相当長補正係数 室内・外の高さの差補正係数

暖房能力算出例

・形式：ASJ140H，60Hz標準風量，室内湿球温度：20 DB，室外乾球温度：6 WB

相当長：30m，室内外ヘッド差：5m（室外ユニットが上）

$$\text{正味暖房能力} = 15.0\text{kW} \times (0.94 - 0.01) = 13.95\text{kW}$$

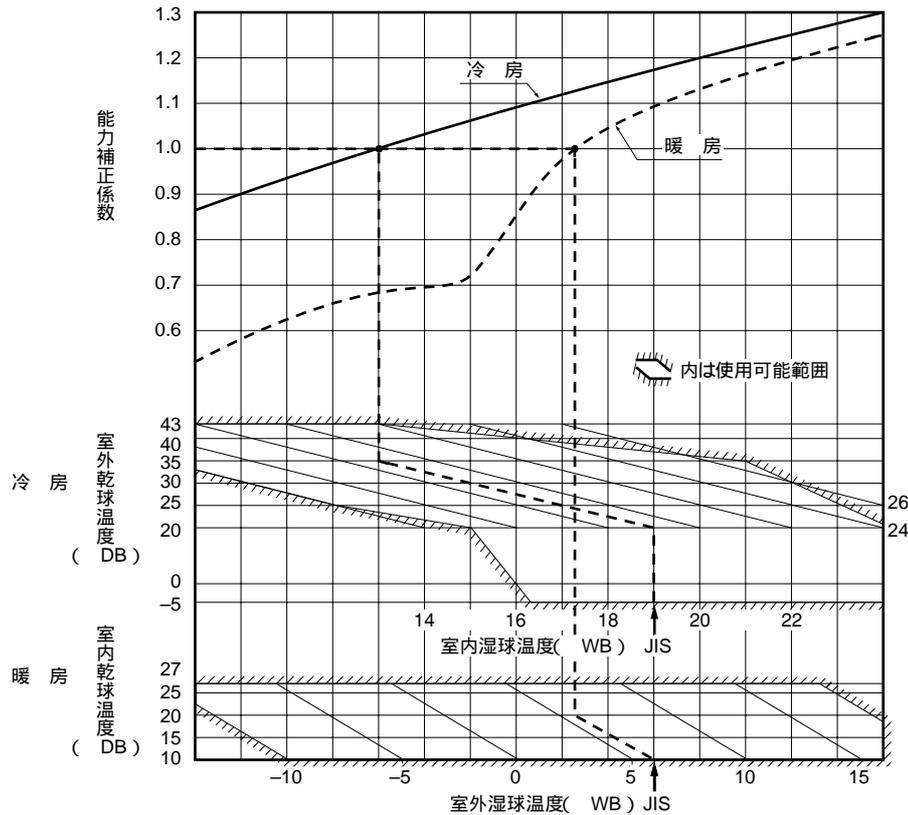
能力特性 相当長補正係数 室内・外の高さの差補正係数

FDSJ140HD2, 200HD2, 280HD2

仕様の能力値はJIS-B8616条件による値です。実際の能力は下式により求めてください。
 (なお、暖房能力は、補助ヒータを含まないヒートポンプのみの値です。)

$$\text{実際のユニット能力} = \text{定格能力} \times \text{空気条件による補正係数} \times (\text{配管相当長による補正係数} - \text{室内・外高低差による補正係数})$$

(1) 室内外温度条件による能力補正



● バイパスファクター 一覧表

項目		容量	J140D2	J200D2	J280D2
風量	標準		0.180	0.185	0.190

(2) 配管距離・室内・外ユニット高低差による能力補正

冷媒配管長(室内・室外ユニット間の片道長)及び室内・室外ユニット高低差により、冷・暖房能力の補正が必要です。

(a) 配管相当長による能力補正係数

室内・外ユニット間の高低差0mの場合の配管相当長対応の補正係数は下表のとおりです。

(50/60Hz)

ユニット容量		相当長(m) ¹⁾										
		5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
暖房(全形式共通)		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.995	0.995	0.99	0.99	0.985	0.985
冷房	J140	1.0	0.99 / 0.985	0.975 / 0.97	0.965 / 0.955	0.95 / 0.94	0.94 / 0.925	0.925 / 0.91	0.915 / 0.895	0.9 / 0.88	0.89 / 0.865	0.875 / 0.85
	J200, J280	1.0	0.99	0.98 / 0.975	0.97 / 0.965	0.96 / 0.95	0.95 / 0.94	0.94 / 0.925	0.93 / 0.915	0.92 / 0.9	0.91 / 0.89	0.9 / 0.875

注(1) 相当長は下式により計算してください。
 但し相当長としてそれぞれの形式の配管距離制限長さ(実長)+5m以内となるよう設置してください。
 ・ J140形相当長 = 実長 + (0.15 × 途中配管のベンド数) ・ J280形相当長 = 実長 + (0.20 × 途中配管のベンド数)
 ・ J200形相当長 = 実長 + (0.15 × ")

(b) 室内・外ユニット高低差による能力補正

冷房時室外ユニットが下，暖房時室外ユニットが上，の場合のみ配管相当長による能力補正係数から下表の数値を差引いてください。

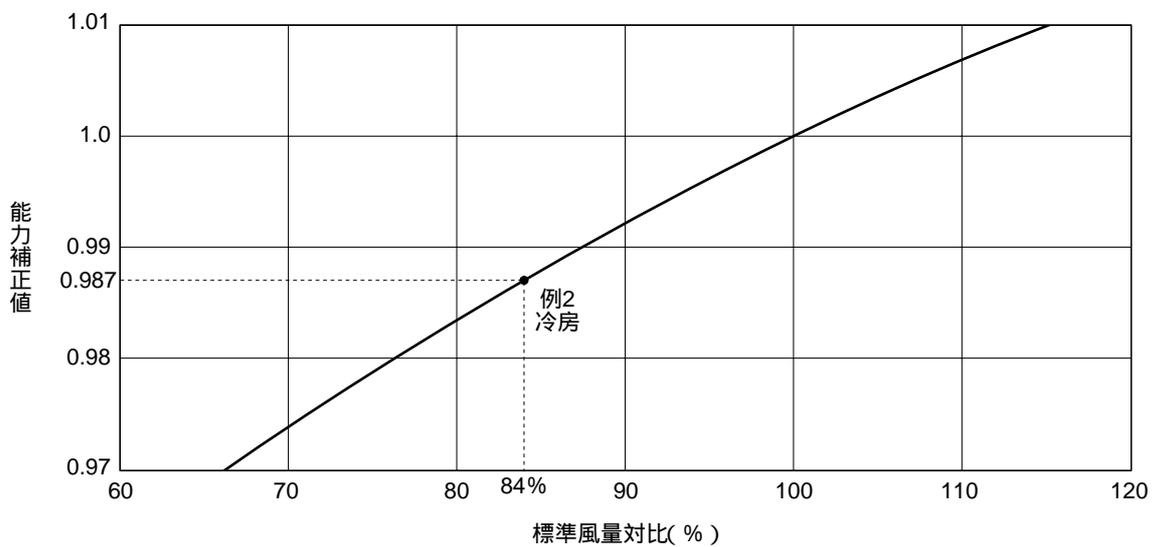
室内・室外ユニットの高さ方向の差m	5	10	15	20	25	30
補正係数	0.01	0.02	0.03	0.04	0.05	0.06

配管距離の制限値

項目	容量 J140, J200, J280
最大片道長さ(実長)(m)	50
高さ方向 ^{(1),(2)} (m)	30(15)

注(1) 表中の数値は室内，室外ユニット間の配管片道長さを示します。
 (2) ()は室外ユニットが室内ユニットよりも下にある場合を示します。

(3) 風量補正



暖房能力算出例

形式：FDSJ140HD2 (50Hz)，
 風量：標準 (工場出荷時)，
 室外湿球温度：3 WB，室内乾球温度：23 DB
 配管距離相当長：30m，室内，室外ユニットの高さ
 方向の差10m (室外ユニットが上)

$$\text{正味暖房能力} = \underbrace{14.0}_{\text{FDSJ140HD2 定格暖房能力}} \times \underbrace{0.80}_{\text{温度条件による補正}} \times (\underbrace{0.995}_{\text{相当長 30m}} - \underbrace{0.02}_{\text{高低差 10m}}) \times \underbrace{1.0}_{\text{標準風量対比 (100\%)}} = 10.9\text{kW}$$

冷房能力算出例

形式：FDSJ140HD2 (50Hz)，
 風量：下限風量：38m³/min，
 室外乾球温度：33 DB，室内湿球温度：19 DB
 配管距離相当長：30m，室内，室外ユニットの高さ
 方向の差5m (室外ユニットが下)

$$\text{正味冷房能力} = \underbrace{12.5}_{\text{FDSJ140HD2 定格冷房能力}} \times \underbrace{1.03}_{\text{温度条件による補正}} \times (\underbrace{0.95}_{\text{相当長 30m}} - \underbrace{0.01}_{\text{高低差 5m}}) \times \underbrace{0.987}_{\text{標準風量対比 84\% (38/45)}} = 11.9\text{kW}$$